

cheer

チアー [cheer]

応援すること・喝采すること・激励すること
元気がよいこと・気分がよいこと・おもしろいこと

NO.12

Reportage of Graduates

それぞれの卒業後を追う

●丹後和紙「田中製紙工業所」5代目

田中敏弘

●エリア探訪「信州編」

ミニヨンホテル・ドゥ・ノエル

一井 勲

Let's Reeducate!

誌上ゼミナール／辻 幸恵

ブランド戦略は
景気回復の起爆剤となるか!?

KGU Topics

創立30周年記念式典&祝賀会

1999年4月、「人間文化学部」スタート!

同窓会員の広場

卒業生のお店／地元で頑張っています

あの先生は、今／ボイスボックス

創立30周年記念募金／事務局だより

ふれあいレポート

かに料理専門店 | 山よし 済の華 | 山本恵輔

それぞれの卒業後を追う

田中敏弘

昭和59年
経済学部経営学科卒業
丹後和紙「田中製紙工業所」
の5代目として活躍中

400年を超える伝統の技術を受け継ぎ、 納得のいく出来栄えの手漉き和紙を 1枚でも多くつくること、 それが私の使命だと思っています。

丹後路に 今も紙漉く二夫婦

「年に何度かデパートの催しに招かれて、1週間から10日ばかり都会暮らしをしますが、あれは芯から疲れますね。常に人と対面しているため、神経が休まるヒマがないんですよ。つくづく田舎暮らしがいいと思います」

福知山・宮津間を単線で結ぶ北近畿タンゴ鉄道の「二俣」駅。山を背にし、前面にはのどかな田園風景が広がる無人駅だ。線路に沿って流れる小川を渡り、田んぼを横切ると、大江と宮津を結ぶ府道沿いに手漉き和紙の工房がある。今回の訪問先、田中製紙工業所である。黄金色に色づきはじめて稲穂を渡る心地よい初秋の風に吹かれながら、昭和59年KGU卒業の同窓生・田中敏弘さんにお話を伺った。

「この辺り一帯は、古くから紙漉きの村として栄え、一時は200戸余りが和紙づくりに従事していたといわれています。もともと紙漉きは、地元で栽培されていた良質の楮(こうぞ)を原料として、農家や養蚕家が冬場の農閑期に作業していたものなんです。それが時代の趨勢で次々と廃業していき、今では私ども1軒を残すのみとなりました」

そう語る田中敏弘さんは、今から400年以上前の慶長年間、すなわち織田信長や豊臣秀吉が活躍していたころに発祥したといわれる、丹後和紙の継承者である。現在、師匠でもあるお父さん夫婦とともに、親子二代で昔ながらの紙漉きに従事している。

同所のリーフレットには「丹後路に今も紙漉く二夫婦」という一句がしたためられ

ている。その句のとおり、まさに絵になる丹後路の一情景がここにある。

親子5代にわたる継承で 「丹後和紙」の伝統を守る

伝統保持の努力が認められ、大江町無形文化財の指定を受けたお父さんが4代目、敏弘さんは5代目を名乗っている。

「実は明治時代に大火があり、古い記録がみんな焼失してしまったんです。だから、はっきりと記録に残っている先祖を初代としているわけですが、それ以前に何代さかのぼるのか、実際のところはよく分からないんですよ」

ところで丹後和紙というのは、全国的に知られた存在なのであろうか。

「丹後産の和紙といえば、綾部界隈の『黒谷和紙』が比較的知られています。古くから、集落で組合を作って全国的に出荷してきましたからね。これに対して『丹後和紙』というのは最近の名称で、それまでは河守紙、二俣紙というように、生産家それぞれの名称で出荷してきたため、それほど知られた存在ではありません。しかも『丹後和紙』を名乗っているのは、今や私ども1軒だけですからね」



山を背にした「二俣」駅に降り立つと、その正面にまず目につくのが32角形の風変わりな建物・大江町立「和紙伝承館」で、これと軒を連ねるようして「田中製紙工業所」がある。その周辺には、のどかな山里の風景が広がる。

「5代目を継ぐ」という事実は、子供心にも意識していました。でも、そんなプレッシャーを、息子にはかけたくないですね。

全国的にも珍しくなった 原木からの一貫生産体制

ここで手漉き和紙の製造工程を簡単に紹介しておこう。

- 伐採／葉がすっかり枯れ落ちた冬季に楮を伐採し、1mほどの長さに切りそろえる。
- かご蒸し／楮の皮をむき、大釜に皮を入れ、桶でふたをして2〜3時間蒸し上げる。
- 皮干し／約1週間かけて皮がカラカラになるまで天日で干す。
- 皮むき／黒い表皮を取り除いて、同時にキズも取る。この状態で保存し、年間を通じて必要に応じて使っていくわけだ。
- 楮煮／乾燥させた皮を一昼夜、川の中につけてアクを抜き、ソーダ灰などの薬品を加えて2時間ほど煮上げる。
- 水より／1本1本でいいいにキズやゴミを取り除く。
- 楮打ち／十分に叩いて繊維を柔らかくする。さらに菌車状のドラムの間を通して、ドロドロの状態になるまで繊維を短くほぐす。
- 攪拌／漉き舟に入れて水の中に均一に溶かし、さらにトロロアオイを加えてかき混ぜる。トロロアオイはオクラの仲間で、独特の粘りを持つ植物。その粘液で繊維のからみをよくする働きをする。
- 紙漉き／桁に竹の簾を敷き、漉き舟

から均一の厚さに楮の繊維をすくい取る。
●水切り／漉いた紙を積み上げ、ジャッキで十分に水分を搾り取る。
●乾燥／干板に1枚ずつ貼りつけ、天日で乾燥させる。
●加工／染色・裁断を行ったうえ、それぞれの製品に仕上げる。

「今でこそ、楮の栽培だけは近くの農家に委託していますが、それにしても原木から最終加工まで一貫して手がけているのは、全国的にも少ないといわれています。手漉き和紙はたいへん手間も時間もかかりますが、この伝統工芸を大切に守っていききたいですね」

最近ではバルブをふんだんに使い、機械でつくる和紙が大量に出回っている。また、原料やその下処理を東南アジアに頼っているケースも少なくない。だからこそ、よけいに丹後和紙の存在が光り輝いて見える。

書道や日本画、ちぎり絵、あるいは障子紙や民芸紙など、日本文化と深くかかわりを持つ本物の和紙づくりの技術を、いつまでも伝承し続けてほしいものだ。

高度な製紙技術を継承し 隣接地には和紙伝承館も

和紙の種類は数多いが、なかでも最も技術的に難しいとされているのが漆漉し紙、つまり手漉き和紙では技術的な限界ともいえる極薄の紙だ。現在、その技術を持っているのは全国で2軒だけとされているが、その1軒がここ田中製紙工業所なのである。もともと和紙で作った漆漉し紙は、レーヨン紙などの普及によってほとんど需要はなくなっているが、それにしてもその高度な技術は貴重な存在といえるだろう。

大江町では、その隣接地に「和紙伝承

まるでカンビウのような乾燥した楮の内皮を、煮て、叩いて、解かして、ドロドロの粥状にしていく。長年の経験と勘が要求される作業だ。よい和紙が漉けるかどうかは、これらの工程の成否にかかっている。



和紙づくりのハイライト、紙漉き。腕ですくうのではなく、腰と肩のバランスが大切だといふ。熟練すると自在に紙の厚さが調節できる。

館」を開設した。目的の一つは、いうまでもなく丹後和紙の伝統を守り、一般に広く認知してもらおうことだ。そしてもう一つ、町おこし対策の一環として、地場産業の振興や観光客の誘致にも一役買っている。このように田中製紙工業所は、無形文化財の指定を受けたことでも明らかのように、公的にも大きな期待と役割を担っているのである。

「跡継ぎ」として期待され 子供心に感じた重圧と悩み

伝統の丹後和紙を継承するただ1軒の家。その家で長男として生まれ育った敏弘さんには、周囲の人たちから当然のこととして後継者への期待が寄せられていたようだ。

「子供のころから、大きくなったらこの仕事を継ぐのかなあと漠然と考えていましたが、成長するにつれて「長男が跡を継ぐのは当然だ」という周囲の期待を感じるように

なり、だんだん現実味が増していきました」
しかし、何と言っても自分自身の一生の問題である。大学での4年間、じっくりと自分の人生を考えてみた。いずれにしても一度は他人のメシも食っておかなければと、1年近く商事会社で営業社員として働いてもみた。そのうえで、やはり自分が進むべき道はこれしかない、5代目を継ぐ決意を固めたという。

「周囲からのプレッシャーを感じ、悩みもただけに、息子には押しつけたくない。自分の道は自分で選んでもらいたいですね」



部分部分で機械化されているが、基本的には手作業に変わりはない。長年にわたる修練があってこそ一貫生産体制が維持できるのだ。



それぞれの卒業後を追う

マーケティングを学び、 人としての生き方を学んだ 大学での4年間は、 本当に有意義でしたね。

ゼミ、寮生活などを通じ 生涯つき合える友を得た

「これまでの人生を振り返ってみると、大学で過ごした4年がかなり大きな位置を占めていますね。1~2回生の時にゼミで指導を受けた哲学の大田先生には、人としての生き方や物の考え方などについて、ずいぶん貴重なアドバイスをいただきました。また、3~4回生のゼミで三家先生に学んだマーケティング理論は、仕事のうえでずいぶん役立っています。当然のことなのでしょうが、大学生生活は決して無駄ではなかったと思いますね」

寮暮らしで始まった私生活の面でも大き



現地で販売されている和紙製品の数々。これらの製品も、1つ1つ手作業によって加工されている。



4代目夫婦と5代目夫婦の絶妙のチームプレイが丹後和紙の伝統を守っている。

田中製紙工業所
☎620-0324 京都府加佐郡大江町二俣
☎0773-56-0743
●JR山陰本線または福知山線「福知山」駅下車。北近畿タンゴ鉄道に乗り換え「二俣」駅下車。
●国道9号線または舞鶴自動車道で福知山へ。そこから国道175号線で大江町へ。府道で宮津方面へ約5分。

な収穫があったようだ。

「入学後、1年間は寮で暮らしたのですが、規則づくめで窮屈な思いをしました。なにしろ門限が午後10時ですからね。その代わりに、何にも代えがたい親友を得ることができました。今でも家族ぐるみの付き合いをしているんですよ。2~3回生の時は大学の近くで下宿し、また4年間を通じてクラブ活動を続けましたが、そういういろんな体験のなかで数多くの友人を得、また多くのことを学ぶことができました」

大学を出て15年、今は2児の父となっている田中敏弘さんが、学生時代を語ると時を超えて気持ちが若返るようだ。

「かつての寮仲間と、旅行に出かけるのが何よりの楽しみなんです。また、市内へ出たりした時には、友人宅へ立ち寄ることも多いですね。やはり一番長く、また深い付き合いができるのは大学時代の友人だと思えます」

人を愛し、自然を愛し、そして伝統の技を守る田中さんの柔らかい物腰や言葉からは、ほのぼのとした温かさが伝わってくる。その快い温かさにつつまれながら、大江山の山ふところに抱かれた山里を後にした。



エリア探訪 信州編

大好きなスキーを通じて、 人や自然と触れあう、 すばらしい生き方に共感!



一井 勲

PROFILE

昭和49年3月
経済学部経営学科卒業
ミニオンホテル・ドゥ・ノエル経営
長野県北安曇郡白馬村岩岳スキー場
☎0261-72-4845
1泊2食付1万円(平日はリフト券付)。夕食は旬の野菜・山菜を生かした和風・フランス風の家庭料理、朝食では自家製の焼きたてパンが味わえる。夜のお楽しみはカウンターバーでの一杯。特に地元産ワインがおすすめ。

若いころからの夢を追い続け、 27歳でペンション経営を実現。

一井さんは京都生まれの京都市育ち。高校時代にスキー部に入ってスキーの楽しさに目覚め、さらに合宿で人や自然とのふれあいのすばらしさを知った。やがて、サラリーマンになるよりも民宿か山小屋の経営をめざしたい、と夢は大きくふくらんでいった。

大学卒業後、働きはじめたのが白馬の山小屋。経営ノウハウを学ぶとともに、宿泊客に出す料理の腕もがいた。そして4年、高校時代の合宿以来なじみになった白馬・岩岳の人たちの協力を得て土地を探し、いろんな人たちの支援で資金を調達して、ついに27歳でペンションを経営する身となった。借金まみれのスタートであった。しかし幼なじみであり、スキー仲間でもあった奥さんと二人三脚で頑張り通し、着々と基盤を固めていった。それから二十数年、今では一井さん夫婦の家庭的な温かさに魅かれて、東京方面を中心に多くの人たちが訪れている。

KGUのスキー部やCBSなど 世界の報道関係者も滞在。

何年か前の岩岳学生大会の際、KGUのスキー部員が宿泊し、同窓生も何度か利用しているという。そして最近、岩岳スキー場は夏場はマウンテンバイクのメッカとして知られるようになり、7月から8月にかけて、合宿客などで大いににぎわうようになっている。

そんな一井さんにとって忘れられない思い出は、なんといっても長野オリンピックだ。約2カ月間、米国CBSを中心とする世界の報道関係者がペンションに滞在。また、一井さん自身はクロスカントリーの、息子さんも大回転・滑降の競技役員として一翼を担った。現在、2人の息子さんは滑降やジャンプで活躍する現役選手。まさに家族あげてのスキー一家である。思うぞんぶん滑ったあとの冬の夜長に、地元産のワインを酌み交わしながらスキー談議に花を咲かせるのも、楽しみのひとつといえるだろう。



「スキーもマウンテンバイクも岩岳」と一井さん。しゃれたペンション風のホテル玄関前で「ハイ、ポーズ」。



奥さんの得意はマッチワーク。大小さまざまな作品が土産物として販売されている。



長野オリンピックの際、息子さんとともに競技役員を務めた際の感謝状。一生の思い出だ。

一井さんから聞きました

白馬のお勧めの場所



①白馬ジャンプ競技場
長野オリンピックで全国を沸かしたさせたジャンプ台。リフトとエレベーターでスタートタワーに昇ることができる。



②雪の道「岩岳の瀧」
ペンションから徒歩10分、天然温泉が湧き出る共同浴場(入湯料500円)。疲れをいやすにはやっぱり温泉が一番だ。



③青木湖キャンプ場
岩岳から南へクルマで20分。青木湖・木崎湖と連なる湖はいつでも絶好のキャンプ場。観光にもおすすめです。

気鋭の経営学者が大胆提言

ブランド戦略は

底を打った、回復基調にあると言われながらも、消費低迷だ、リストラだ、企業倒産だと、まだまだ長期不況から立ち直れない日本経済。そんななかで相変わらず元気なのが、シャネル、エルメス、グッチなどのブランド商品だ。そこで9月のある日、「ブランド」をテーマとし、ユニークな研究で注目を浴びている、KGU経営学部経営学科の専任講師、辻幸恵先生を研究室に訪ね、その研究成果と先生の持論を伺ってみた。

景気回復の



辻 幸恵先生
 武庫川女子大学文学部教育学科卒業
 神戸大学大学院経営学研究科商学専攻修了/修士(商学)
 武庫川女子大学大学院家政学研究科被服学専攻修了/博士(家政学)
 現京都学園大学経営学部経営学科専任講師 セミナー/消費者行動論
 著書に「ブランドと日本人」があるほか、朝日新聞や読売新聞などの取材記事に登場。研究成果を学会で発表するほか、講演活動も精力的にこなしている。

起爆剤となるか!?

幼時から養われてきた感性が、日本人のブランド志向を助長

街には高級ブランドがあふれ、ブランド物を手に入れるために援助交際も辞さない女子高校生さえいるという。日本人のブランド信仰はいささか異常というほかないが、一体ブランドの何がこれほどまでに日本人女性を駆り立てるのだろうか。辻先生の答は明快だ。

「欧米は階級社会なんですね。つまり、高級ブランドを持てるのは、一部の階層の人たちに限られているわけです。ところが階級も階層もない日本では、誰が何を持ってバッシングを受けるようなこ

ドのコピーやまがいものの売れ行きがダウンしていることです。パブルのころは本物のほかに、そういうものを遊び心で買う人が多かったのですが、今はそんな余裕がないということで、本当にいいものだけを厳選して買っているんですね」

「いずれにしても、ブランド商品の売上げ総額は極めて安定しており、いわゆる6大ブランドを中心にパイを奪い合う形でそれぞれがしのぎを削っています。かつてのようにシャネル(シャネル愛好者)が増えると、他のブランドが割を食うといった調子で、お互いがせめぎ合っているわけですね。ゆるやかながら需要は年々増えているし、新しいブランドも次々と生

なぜブランドは、こんなにも日本人をとりこにするのか?

とはありません。たとえ中学生がルイ・ヴィトンを持ったとしても許される、そんな社会なんです」

「特に若い世代の人たちは、生まれつき豊かな時代に育っていますからね。子供のころからお母さんと一緒に百貨店や専門店に出かけ、いろんなブランド商品を目にし、手にして育っています。たとえば25歳の人だと、すでに20年間もブランドとともに育っているわけですね。自然に感性が高まるし見る目も磨かれる。つまり男女を問わず、ブランド物を求める素地がしっかり出来上がっているんです」

「だから、世の中の価値観が大きく変わらないかぎり、日本人のブランド崇拜は変わらないと思います。むしろ長期不況の影響で、本物志向が強まっているといえるでしょうね。面白いのは、ブラン

まれていますので、これからも多少の変動はあるにしても、こうした基調は変わることなく続いていくものと思われそうです」

虚栄心より自分自身の満足のためブランド品を持ちたがる

辻先生に、もう一步突っ込んで考察してもらおう。なぜブランド品を欲しがるのか、ブランド品のどこに魅力を感じるのかといった点である。

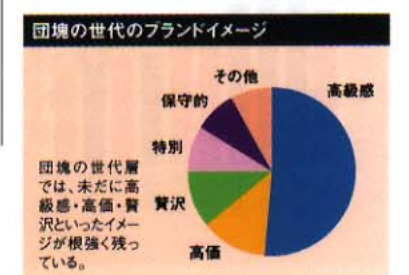
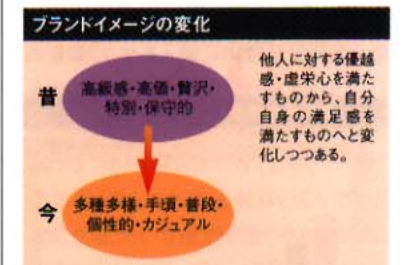
「4年ばかり前、大阪市周辺の20代のOLを対象に実施した調査では、虚栄心を満たすためにブランド品を購入するという人が目立っていました。自分が持っているブランド品を他の人に見せびらかしたい、高価なブランド品を身につけて優越感に浸りたい、といった理由ですね」



「ところが最近では、そうした他人の目を意識したものから、自分本位の考え方に変わってきています。他人はどうでもいい、自分自身が気に入るかどうかが、つまり自分が満足できるかどうか、ブランド品の選択基準になっているわけです。今やブランド品は見栄を張るツールではなく、持つ人の心のよりどころになっているといえるでしょう」

「現に、かつては高級感・高価・贅沢・特別・保守的といったイメージでとらえられていたブランドが、最近の調査では多種多様・手頃・普段・個性的・カジュアルといったイメージに変わってきています。ただし、たとえば団塊の世代では今なお半数が高級イメージを持っているなど、年代によってかなりとらえ方が異なります」

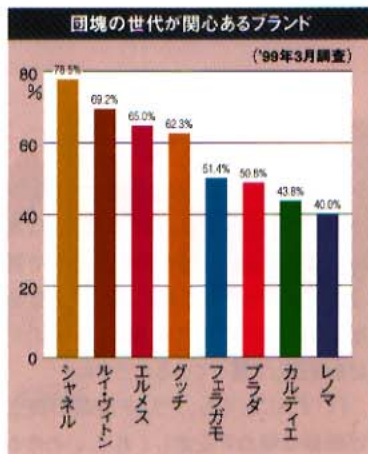
「このように、ブランドに対する考え方や価値観は、時の流れとともに、あるいは年代層によってもかなり違ってきます。これからのブランド戦略は、今まで以上にそうした点に配慮して、展開していく必要があるでしょうね」



既成の視点にとらわれない 新たな需要の創造が不可欠

本論に入ろう。果たしてブランドは景気回復の起爆剤となり得るのか。あるいは景気に影響を及ぼすだけの力を持っているのかどうか、という問題である。辻先生は「ある」と明言する。

「ブランドの好みは、年代によってかなりの差が見られます。たとえば、'99年の春から夏にかけてバッグを対象に調査した結果によると、人気ブランドのベスト5は、女子大生がA.P.C.、アナスイ、アニエスb、エトロ、エルメス。これに対して団塊の世代はシャネル、ルイ・ヴィトン、エルメ



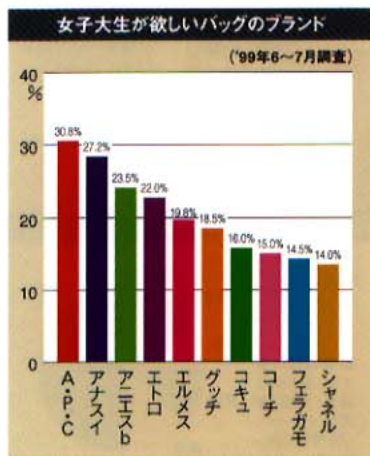
が評価されて、多くの高齢者が使用しています。つまり、若者向けのブランドや商品であっても、使いやすさなどの機能性を工夫することによって、高齢者にも十分通用するものがあるはずなんです

「いうまでもないことですが、先入観や従来の常識にとらわれず、ターゲットをよ

景気回復の救世主となる ブランド戦略とは何か?

ス、グッチ、フェラガモとなっており、そこには決定的ともいえる好みの違いが認められます

「しかし、だからといって若い世代の好みや流行が、中高年層に全く受け入れられないと断定するのは早計です。たとえば若い世代で流行しているリュックサック。両手が自由に使えるという機能性



り大きなマーケットに向けてこそ、より効果的な需要増が期待できます。少子化が進む日本で最も大きな購買層といえ、50代前半を中心とする団塊の世代。それにますます人口比率が高まる60代以上の高齢者層なんです

「ブランド品は高級・高価なものというイメージを払拭し、高年齢層にフィットする機能性やデザインなどを提案・提供できるなら、十分に景気回復の起爆剤になり得るだろうし、相当な経済効果も期待できると思いますね」

振り子からリング現象へ 次世代の流行を予測する

ターゲットをどこへ向けるにしろ、ファッション商品に流行はつきもの、次世代の動きを確実にキャッチする必要があります。



これについても辻先生はユニークな観察を行っている。

「従来、流行は一定周期で行ったり来たりを繰り返す、振り子のようなものとされてきました。しかし最近の傾向を見ると、ある年代層と年代層が相似した好みや考え方を持つという、いわばリング状の様相を呈するようになっていきます」

「たとえば20代と60代。この両年代層は、他人の目を意識するよりも、色やサイズ、使いやすさなど、あくまでも自分の好みに合ったもの、自分に似合うものを求める傾向が見られます。同様に、30代の好みも10代に反映されているのも、最近の傾向といえるでしょう」

「ひとつの考え方として、親が生きてきた時代を子が受け継ぐ、という考え方ができると思います。厳しい生存競争を体験してきた団塊の世代の子供たちは、同様の生き方をしてきたという点で同じような価値観を持ち、ウルトラマン世代の子はやはりウルトラマンに熱狂して育っている。アニメ世代が親になった時、その子供たちも影響を受ける可能性は高いといえるでしょう」

「いずれにしても、次代の方向性をしっかりとらえ、そのターゲットに向かって攻撃を仕掛けていく、それが景気回復の決め手といえるでしょうね。そのキーワードをあえていうならば、私はクルマとブランド(ファッション)、それにギフトとイベントを挙げたいと思います」

物のやりとりは過去のもの? 新感覚のギフト&イベント

辻先生が挙げた4つのキーワードのうち、クルマとブランドは分かるとして、ギフトとイベントとは何か。

「私の教室の、最も新しい研究のひとつが最近のギフトの動向なんです。昔は

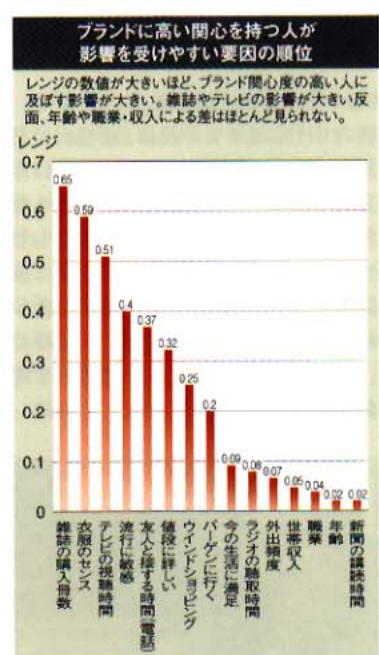
お中元やお歳暮をはじめとして、節目節目に物を贈る習慣が根づいていました。ところが物が有り余っている今の時代、贈っても喜ばれない、大切にしてもらえない、大きい物や重い物は嫌がられるなど、ギフトの名分がなくなっているんですね」

「異性間のギフトも同様で、物をもらうと気持ち的に重いというんです。別れる時、もらった物をどうするか、なんて悩みもありますからね。それよりも、誕生日を祝うならホテルに行けば、プールやカラオケなんかがあって楽しく過ごせる。あるいは仲間みんなと飲みに行って、楽しく騒いでお祝いしようといった調子なん

リストラで発展は望めない。 知恵を出して人を生かそう。

です」

「つまり若い人たちの間では、個人的にギフトのやりとりをするよりも、参加型



ギフト、参加型イベントが主流になってきているといえるでしょう。結婚披露宴なんかもそうですね。顔も知らない親類の人なんか呼びたくない。仲間が集まって楽しくやればいいじゃないか、という考え方に変わってきているんです」

「その背景には、タテの人間関係が希薄になっていること。それに将来のことを考えるよりも、『今』を大切にしたいという思いが強いことでしょうね。実際、中学生や高校生にとっての将来とは、せいぜい大学受験ぐらい。社会に出てどうするかということまで考えている人は、ほとんどいないと思うんですよ。その結果、その場その場が楽しければい

い、という風潮が生まれてきたんだと思います」

「そうした新しい形のギフトビジネス、あるいは参加型イベントを経営のなかにどう取り込んでいくか、またどのように新事業に生かしていくかも、ひとつのポイントといえるでしょうね」

経営者のアタマが堅すぎる もっと柔軟な思考がほしい

新事業も大切だが、現実の問題として企業を取り巻く環境は厳しく、世の中にはリストラの嵐が吹き荒れている。この現状をどうとらえればいいのかを、最後に辻先生にうかがってみた。

「リストラといえば人を切ること、という考え方が横行しているようですが、社員を減らしていいことなんてひとつもありません。人あってこそその企業であり、それをコンピュータに置き換えることなんてできるわけがないんです。外国人もどんどん入ってきていることだし、この際、大いに知恵を絞って適材適所で人を活用する方法を考えてほしいですね」



せん。人あってこそその企業であり、それをコンピュータに置き換えることなんてできるわけがないんです。外国人もどんどん入ってきていることだし、この際、大いに知恵を絞って適材適所で人を活用する方法を考えてほしいですね」

「一番の問題は、経営者のアタマの堅さにあると思います。どんなに環境が厳しくても、売り上げを伸ばし、厳しさを乗り越える方策は必ずあるはず。要は古い経営感覚を切り替え、時代の流れをしっかりと読み取りながら、みんなで知恵を出し合うことですね。そうすれば、決して先は暗くないと確信しています」

「私のところのゼミ生は、常に20名を超えています。それでも人手が足りなくて困っているんです。やりたいことが山ほどあるのに、ゼミ生が足りなくて手を出せないなんて本当に残念です。なにしろカラオケの調査をするだけでも、曲目だ、設備だ、ドリンクだ、食べ物だと調査項目がいっぱいあって、少なくとも10名は必要ですからね。その合間に歌も歌わなきゃならない(笑)。大変ですよ」

「もちろん、企業経営をそれと同列に論じるつもりはありません。しかし、アイデアがたくさんあれば人材はいくらでも必要になる、という点では通じるところがあるのではないのでしょうか。人を減らす前に、まず次代が必要とする新事業を考える。その事業を育てて人材を生かす。そういう前向きな方向性で、これからの企業の舵取りをしてほしいですね」

創立30周年記念式典&祝賀会

「世界的視野で主体的に考え行動する人材の育成」を建学の精神に掲げ、昭和44年4月に創立された母校は、平成11年、めでたく30周年を迎えました。5月15日に開催された記念式典&祝賀会の模様を報告させていただきます。



厳かに、晴れやかに、 母校創立30周年 記念式典&祝賀会を挙行!

「人間文化学部」開設記念行事も同時開催



同窓会寄贈の時計塔

30 t h A n n i v e r s a r y

人文・社会科学系の総合大学として、 21世紀への飛翔を高らかに宣言!

式典の会場となったのは、竣工もない「悠心館」の大講義室。定員の400席がほぼ埋めつくされた午前10時、厳かに式典が開始されました。冒頭、式辞に立った傳田学長は「過去1万4000人余の卒業生を送り出し、地域社会・国際社会の期待に応えてきた。30周年を機に人間文化学部を創設。人文・社会科学系の総合大学として、ますます進展する情報化・国際化社会に対応していきたい」と、21世紀に向けて

さらなる発展を誓いました。

続いて辻本理事長が挨拶。京都府の荒巻知事(代読)、亀岡市の田中市長、日本私立大学協会の橋高会長(代読)から祝辞をいただいたあと、有馬文部大臣をはじめとする多数の祝電が披露されました。最後に人間文化学部の八木学部長が新学部の紹介と将来への決意を述べ、10時43分、とどこおりなく記念式典の幕を閉じました。



挨拶に立った辻本一郎理事長



式辞を述べる傳田学長
八木充人間文化学部長

小嶋名古屋大学教授の講演に続き、 新カレッジソングを合唱・披露。

式典に引き続いて10時45分、「心の時代の家族」と題して、名古屋大学教授で教育学博士でもある小嶋秀夫氏が記念講演。歴史的・文化的な背景のなかで心理学の変遷をたどりつつ、現代の親子関係・家族関係がどう変化しているかに言及。カルチャー&マインド、すなわち文化と心は分かち難く密着したものであるとして講演を締めくくられました。なお小嶋教授は、平成12年度から本学の人間文化学部教授に

就任していただく予定です。

このあと本学学生の合唱団によって、宇崎竜童氏の作曲で話題を呼んだ新カレッジソングが披露されました。宇崎竜童氏自らのビデオメッセージが流されたあと、本学職員の山内タカ子さんが作詞した学生歌「時はくる」、平成10年度法学部卒業の森本豪浩さん作詞による応援歌が声高らかに歌われ、予定どおり12時にすべてのプログラムを終了しました。



宇崎竜童氏のビデオメッセージが流れる式典会場



新カレッジソングを合唱

講演に立つ小嶋秀夫名古屋大学教授

野中前官房長官をゲストに迎え、 大いに盛り上がった記念祝賀会。

午後1時、会場を本学白雲ホール1階に移し、地元選出議員でもある野中広務前官房長官を主賓に迎えて、華やかに祝賀会が開宴されました。冒頭、挨拶に立った野中前官房長官は、「古来、日本の文教の中心軸は京都にある。京都学園大学がその先頭に立って、これからの文教発展のためさらに力を尽くしてほしい」と期待を込めて語られました。

続いて立命館大学の永田総長が「21

世紀社会に貢献するため、ともに教育改革に立ち上がろう」と力強く挨拶。声高らかに乾杯の音頭をとっていただき、なごやかな立食パーティに移りました。

こうして和気あいあいのうちに午後3時、おひらきとなりました。なお出席者全員に、創立30周年記念誌「グローバルな眼差を未来に向けて」と、本学の卒業生・齋藤晃氏が開発したゲームソフト「電車でGO!」が記念品として贈られました。



乾杯の音頭をとる永田立命館大学総長
メインゲストの野中広務前官房長官



なごやかな会話が飛びかう祝賀パーティ

1999年4月、
「人間文化学部」スタート!
人と文化・社会を考察する
新学部の旗をかがけて

高度産業社会における20世紀的な価値体系が動揺し、新たに人間と人間、人間と文化・社会との関係や、自己と日本文化の相対化・交流が強く希求されています。

人間文化学部は、文化や社会をつくり出す主体としての人間や、その所産の本質を明らかにし、再認識することを設置の主目的とするものです。他方、既存の社会科学系3学部に対し、人文科学系学部の参加は、方法・視角・対象を異にする2つの分野の教育研究が、協業しあい競合することによって、学内構造の多様化と個性化を一層進展させ、知的活力を強める相乗効果をもたらすに違いありません。

アルミナイの原点はフォスター性の連帯にあります。約1万5000名の同窓諸兄・諸姉が全学学生にとって、頼もしく美しいフォスター・ブラザーズ・シスターズになってくださるよう、また母校をこれまで以上に応援してくださるよう、改めて切望いたします。



人間文化学部長
八木 充

卒業生のお店

たまにはちょっとリッチな気分で、食事をしてみたいもの。そこでおすすめなのが同窓生のお店。今回は京料理が手軽に味わえる、祇園界隈の2店を紹介します。思わぬサービスが期待できるかも!? ぜひ1度お出かけください。



旬の料理が満喫できる「ビストロ懐石」がおすすめ

京料理 いそべ
円山公園へ出かけたら、ぜひ立ち寄りたいのが京料理の「いそべ」。旬の素材を生かした14品¥5,300、18品¥7,300の「ビストロ懐石」が値ごろ・食べごろのサービス料理だ。また自家製の京ゆばが自慢。「京ゆば懐石」12品¥5,000なら、9種の京ゆば料理が堪能できる。

磯邊秀雄(昭和49年 経済学部 経営学科卒)
京都市東山区円山公園内 ☎(075) 561-2216
京阪電車「四条」-阪急電車「河原町」下車
祇園・円山公園内の阪本馬場側



新鮮な素材を生かした伝統の京料理&創作料理

料亭 京新山
伝統の京料理に新感覚を取り入れた会席料理が自慢。プライベートに食事を楽しむなら、ミニ会席「季節御膳」11品¥4,800、12品¥5,800が手ごろ。接待でもてなすなら、本格的な「竹会席」¥8,000か「松会席」¥10,000がおすすめです。いずれも新鮮な旬の素材が楽しめる。

藤原正樹(昭和53年 経済学部 経済学科卒)
京都市東山区川端新橋角 ☎(075) 541-6980
京阪電車「四条」-阪急電車「河原町」下車
京阪電車「四条」から鴨川沿いに北へすぐ



地元で頑張っています

地元のエンターテイナーとして、さまざまな活躍する同窓生たちを紹介する新コーナーです。今回は「園部吹奏楽団」団長の野々口三男さん取材しました。



1975年に園部高校の卒業生20名でスタートした園部吹奏楽団。今では「ENSUI」の愛称で、京都府下ではかなり知られた存在だ。団員は18歳から46歳まで、学生・主婦・教員・会社員・公務員などバラエティに富んでいる。この楽団でベースクションのチューバを受け持ち、13年前から団長を務めているのが園部町商工会勤務の野々口さんだ。

「定期演奏会やコンクール出場のほか、アンサンブル活動や夏祭り、道路の開通式典などのイベントとけっこう出番は多いですね。得意はポップスなんですが、オリジナルからクラシックまで何でもOK。お隣の亀岡市吹奏楽団と刺激あって、水曜日と日曜日夜の練習には一段と熱が入ります。さらに丹波町にも楽団が生まれ、ネットワークは着実に広がっています」。

普段は地元商店街の福利厚生関係やイベントなどをサポートしている野々口さん。好きな吹奏楽でストレスを発散し、仕事の方もなかなか快調のようだ。



野々口三男
昭和57年経済学部経営学科卒。大学卒業後、京都市内で商社勤めをした後、昭和61年から園部町商工会に勤務。中学時代から吹奏楽をこよなく愛している。

あの先生は、今

ここ20年来の卒業生にはおなじみ、体育の授業でお世話になった木村高満先生のご自宅にお邪魔した。スポーツ一家の長として、今も元気いっぱいの毎日だ。



木村高満先生
元法学部教授・保健体育
京都学園大学名誉教授
東京高等師範学校(現筑波大学)卒。
昭和52年4月から平成10年3月まで
21年間京都学園大学教授として勤務。

「KGUでの忘れられない思い出といえば、入試部長を務めた4年間でですね。かつて京都で高校教師を務め、また教育委員会にもいた関係で、京都市内の高校長はみんな知っていましたからね。その4年目に法学部ができて、入試には私もずいぶん力を入れたものです」
「スポーツの方ではバレーボール部です。関西大学リーグの2部と3部を行ったり来たりしていましたが、やはり本当に強くなるとうするなら、特技入試も必要でしょうね。今は高校と中学でバレーボール、バスケットボールに打ち込んでいる孫の成長が楽しみです」
「KGUの学生は覇気がないというか、おとなし過ぎた感じがしますが、その分、思いやりのある学生が多かったようです。体育の授業をしていますが、できる学生ができない学生の面倒を見る。あるいは男子が女子の手伝いをするといった調子でね。しかし、正直いってもう少し元気がほしい、少々ヤンチャな面があってもいいんじゃないかと思えますね」



VOICE BOX

混声合唱団「ベルカント」 OB会を開催

平成11年5月15日、丹波口「ちゃんこ両国」において、長年混声合唱団「ベルカント」に対してご指導いただいた川畑先生のご退職記念も兼ねたOB会を開催いたしました。この会には川畑先生をはじめとして波多野進教授、荒木助教授、現役員、卒業生の合計25名が集まり、楽しいひとときを過ごしました。現在は不定期に集まっていますが、今後は定期的にOB会を開催していきたいと考えています。(服部)



京都学園大学 創立30周年記念募金にご協力いただき有り難うございました。

募金をお寄せくださいました方々のご芳名を下記にしるし、お礼に代えさせていただきます。(順不同・敬称略)

- | | | | |
|-------|-------|-------|-------|
| 西山英治 | 後藤昭夫 | 長崎好一 | 湊 薫徳 |
| 村木節也 | 三木秀則 | 小糸一徳 | 東 尚志 |
| 松下裕史 | 増田英夫 | 川村哲三郎 | 渡辺尚志 |
| 瀬戸尚人 | 小柳善太郎 | 後藤一平 | 森 裕之 |
| 内山隆生 | 山田浩史 | 上杉康義 | 上田藤男 |
| 佐藤寛巳 | 馬場善和 | 杉本守彦 | 河合良輔 |
| 杉野義和 | 富永 稔 | 田中俊充 | 渡辺昌豊 |
| 高間清彦 | 中川和英 | 仲井剛雅子 | 丸次貴大 |
| 西村文成 | 米谷大介 | 中谷 実 | 小早川達人 |
| 野々村邦広 | 木村克己 | 浅野真実 | 金森秀樹 |
| 古谷 巖 | 肘井健調 | 松本正裕 | 中井和夫 |
| 高橋 寛 | 垂水洋二 | 後藤匡志 | 青草一次 |
| 福井康隆 | 高間昭憲 | 池田知明 | 田辺 容一 |
| 佐田高志 | 西野高正 | 中川 知 | 一ノ井貴紀 |
| 棚瀬 弘 | 網野友克 | 片平康成 | 山本正樹 |
| 宇野 治 | 水谷龍嘉 | 池内研介 | 岩下賢三郎 |
| 月安修子 | 野村勝彦 | 筒居晃弘 | 中村正孝 |
| 山下典男 | 小嶋保博 | 山田卓哉 | 齊藤雅一 |
| 村地厚司 | 橋本 潔 | 石裏智哉 | 江頭拓謙 |
| 村地誠司 | 鉄本浩司 | 加藤成之 | 小早川重信 |
| 高田雄司 | 宗實隆司 | 大内 均 | 松下益雄 |
| 樋口誠二 | 佐藤 究 | 木村 聡 | 森 英彰 |
| 中村純一 | 豊田善明 | 廣瀬勝久 | 榎本岳州 |
| 新田敦志 | 中野恵二 | 近江眞勝 | 松山好伸 |

京都学園大学 創立30周年記念募金「貸与奨学資金」の寄付について再度のお願い

同窓生諸兄姉にはますますお元気で活躍のことと存じます。

さて、京都学園大学は学園創立者・辻本光楠先生の「グローバル化社会におけるアイデンティティの確立」を建学の理念に掲げて昭和44年に創立され、本年30周年を迎えました。わが母校は、経済・経営・法・人間文化の4学部と大学院3研究科及び総合研究所を設け、学生総数4000名を有する人文・社会科学系総合大学へと大きく飛躍しています。そして母校では、創立30周年を記念して「貸与奨学資金」の募集が行われ、この募金が予定通り完遂できるよう役員会で全面的な協力を申し合わせ、同窓生諸兄姉にご寄付のお願いをしてきました。

この結果、平成11年9月30日現在、総額148万円のご寄付をいただいておりますが、この募金活動は引き続き平成12年3月末まで継続いたします。

つきましては、何かとお出費ご多端の折、まことに恐縮なお願いとは存じますが、ここに再度、ご寄付のお願いを申し上げる次第です。母校の将来への躍進のため、ご理解とご協力を賜りますようよろしくお願ひ申し上げます。

平成11年12月
京都学園大学同窓会
会長 浅野真実

平成10年度
京都学園大学

同窓会 決算書

一般会計 (単位:円)	
前年度繰越金	2,167,138
会 費	28,800,000
雑 収 入	79,661
収入の部合計	31,046,799

一般会計 (単位:円)	
事 務 費	957,768
人 件 費	0
事務補助費	957,768
会 議 費	858,630
会 議 費	438,630
交 通 費	420,000
事 業 費	13,908,740
会報発行費	5,905,758
名簿発行費	1,316,382
総 会 費	600,450
助 成 費	5,486,150
奨 学 費	600,000
慶 弔 費	0
積 立 金	13,000,000
基金積立金	0
事業積立金	13,000,000
予 備 費	0
翌年度繰越金	2,321,661
支出の部合計	31,046,799

事務局だより

同窓生の皆さん、いかがお過ごしでしょうか。母校は創立30周年を迎え、21世紀に向けてさらなる発展を遂げようとしています。そこでこれを機に、本同窓会報「Cheer」も「読んで元気になる」「読んでためになる」を新編集方針とし、リニューアルすることいたしました。同窓生それぞれの生き方・考え方や、最近の学問情報などを、ご自身の人生や仕事上の参考にしていただければ幸いです。なお本誌では、次号以降にご登場いただける同窓生を募集しています。自薦・他薦を問いませんので、ぜひ事務局までご一報ください。

ホームページで見る「母校の今」

インターネットで母校の最新情報を見たり、Eメールで情報のやりとりをすることができます。また、近く同窓会専用のホームページを開設する予定です。楽しみにお待ちください。
インターネット:
http://www.kyotogakuen.ac.jp/
Eメール:
gakusei@kyotogakuen.ac.jp

お便りをお待ちしております

住所変更や近況報告、誌面への掲載希望や紹介、クラス会・OB会の報告など何でも結構。お気軽に同窓会事務局へご連絡ください。

TEL:0771-22-2001(代)
FAX:0771-29-2389

ふれあいレポート

各界で活躍する 先輩の「今」を訪ねて



山本恵輔
経済学部経済学科
昭和50年卒業
株式会社山よし
代表取締役社長
在学中、阪神タイガースOBの
協力を得て、野球部創設に参加



レポーター
月安修子
経済学部経済学科
平成6年卒業
京都学園大学総務課勤務

河原町四条から南へ300m、かに料理専門店「山よし 濤の華」が今回の訪問先です。5つの直営店と6つの関連会社を持つ山本さんは、多忙なビジネスの合間をぬって私たちを温かく迎えてくださいました。

山本さんのこだわりはもちろんか二。本場・香住の出身で、子供のころからおやつにもおかずにもか二を食べて育っただけに、見る目の確かさは折り紙付き。冬は山陰から、夏は北海道から買いつけ、1年を通じて旬のか二を供しているそうです。

モットーは「人にやれることならオレにもできる」。大学卒業後、商社の営業マンになったものの、どれだけ頑張っても売上げをあげても給料は一緒、というサラリーマン生活に幻滅。香住でか二の仲買をしていた伯父さんのアドバイスと援助で、25歳の時に12.5坪の店を開店しました。

一流の板前を3人入れて、まずは順調なスタートを切りましたが、ある日意見が衝突して3人とも退職。この急場に、山本さんは知り合いの

山よし 濤の華

寿司店を頼って3日でにぎりずしの技術を修得。さらに1週間で魚をさばく技術を身につけ、自ら職人として板場を仕切ったということです。

学生時代は、授業をさぼって八木のダム湖へ泳ぎに行ったり、9号線でカーチエイスをやったりと、相当なヤンチャぶりを発揮したそうですが、やる気と根性だけはしっかり養っておいたということでしょう。ご本人も「大学でさまざまな個性と出会い、世間を見、人間づくりができた」と振り返っておられます。

山本さんの事業意欲はますます盛ん。やがてはロサンゼルスやハワイにも出店するんだと、意欲満々で語っていただきました。

料理人の修業をわずか10日で卒業！
「人にやれることならオレにもできる」という、先輩のすばらしい根性とやる気は感動ものですね。

KGUの同窓生には精いっぱいサービスします、とは山本さんの弁。



看板料理は「生のかにすき」¥3,500～。
かにの御造り「味比べ」¥1,500～
もおすすめ。バラエティに富んだかに料理が味わいたい向きには「かに会席コース」10品¥4,800～。宴会なら「かにすきコース」6品¥4,800～がある。

インフォメーション

「山よし 濤の華」四条河原町店
河原町通四条南へ300m東側
☎(075) 342-4400
営業時間 AM11:30～PM10:00
●南店 ☎(075) 671-7770
●東山店 ☎(075) 771-3633
●近江大橋店 ☎(077) 566-1555
●壱田店 ☎(077) 574-6555
●本社 ☎(075) 771-3633

